

タイ洪水 工業団地被害拡大

【バンコク西尾英之】タイ中部を襲う大規模洪水で16日、新たにアユタヤ県の「ファクトリーランド工業団地」

が冠水し、県内で洪水被害を受けた工業団地は5カ所となった。アユタヤ県の工業団地には日系企業の現地工場が集中しており、日本貿易振興機構（JETRO）などによると、工場が被災した日系企業は300社以上となった。

バンコクでは、洪水を阻止するため上流からの水を東西に逃がす首都防衛作戦が続いている。16日にはチャオプラヤ川沿いなどで一部で浸水が起きているものの、都心部の大規模洪水は発生しておら

ず、政府は「都市部の洪水は避けられる」との見通しを示している。ただ、バンコクで

はこの日午後には激しい雷雨が降り、在留邦人が集中するスクンビット地区に近い運河でも



16日、バンコクのチャオプラヤ川付近で、洪水であふれた水につきりながらごみを片付ける住民（A.P）

水位が上昇しており、警戒態勢が取られている。

AMDA看護師
バンコクに到着

【バンコク共同】

タイの洪水被災者を支援するため、岡山市の国際医療援助団体AMDAの保健師（看護師）ら2人がバンコクに到着した。AMDAによると、今回の洪水支援でタイ入りした非政府組織（NGO）はAMDAが初めて。

2人は15日、タイ政府の洪水被害対策センターを訪れ、当局者から要望などを聞いた。18日には日本から医師も合流し、被災者の医療支援活動を始める予定。